

神城断層地震時に地すべり土塊を止めた砂防堰堤

小谷村カクレ沢では、平成26年11月22日に発生した神城断層地震により、地すべりが発生。**平成15年度に整備した砂防堰堤が地すべり土塊を補捉**、下流部を通る県道等を保全し、複数の集落と温泉地の孤立化を未然防止。

施設整備に携わった県技術者のコメント

●当時設計に携わった技術者A

- ・不安定土砂量に地すべり土塊を考慮した。当時は規模が大きいとの意見もあった。
- ・地耐力が期待できない等のため鋼製枠構造とした。計画位置は地すべりの末端下流としたため袖折れ構造となった。

●当時工事に携わった技術者B

- ・事前の地質調査の推定通り地盤は悪かった。
- ・鋼製枠の内部材が玉石で詰める作業が大変だった。
- ・工事監督した自分としても堰堤が効果を発揮し良かった。

幅 : 50~100m
長さ: 500m



土砂災害発生前の状況



地すべり土塊の補捉状況

